

【事例発表】

「農山漁村」経済・生活環境創生 プラットフォームに基づく専門部会 アグリスポーツ（仮）の取り組みについて

2025年2月13日

TOPPAN株式会社

西日本事業本部

関西クロステックビジネスイノベーション事業部

玉江 桃子

取り組みの経緯

Well-beingを意識した組織風土づくりの高まり

TOPPANは2023年から株式会社インテグレートとウェルビーイング視点でのビジネス変革サービスの提供で協業開始。

ウェルビーイングの考え方を商品・サービス開発へと取り込み、その先の企業の事業モデル変革までをワンストップで事業支援を行っております。

働くひとたちの Well-beingに繋がる環境、仕組みづくりをビジネスで解決したいとの思いから、一般社団法人Well-being in natureに2023年から参画。

この社団法人自身は「農業」と、その農業で得られる様々なポジティブな効果を活かすということをテーマとして掲げております。

さらに2024年9月からは大阪梅田に開業したグラングリーン大阪内の共創施設PLAT UMEKITAの企画運営を受託。

企業のWell-beingの取り組みの発信拠点として支援しております。



アグリスポーツ（仮）とは

「農作業」でかかる負荷、と「スポーツ」を行うことで受ける負荷、をそれぞれ数値として可視化。**農作業をスポーツ**と捉え、体を動かすことで得られる効果を発揮させていく取り組みを検討。農作業を行うことで起こる健康状態の変化・メンタル状況の変化を数値化し、定量的データを収集。

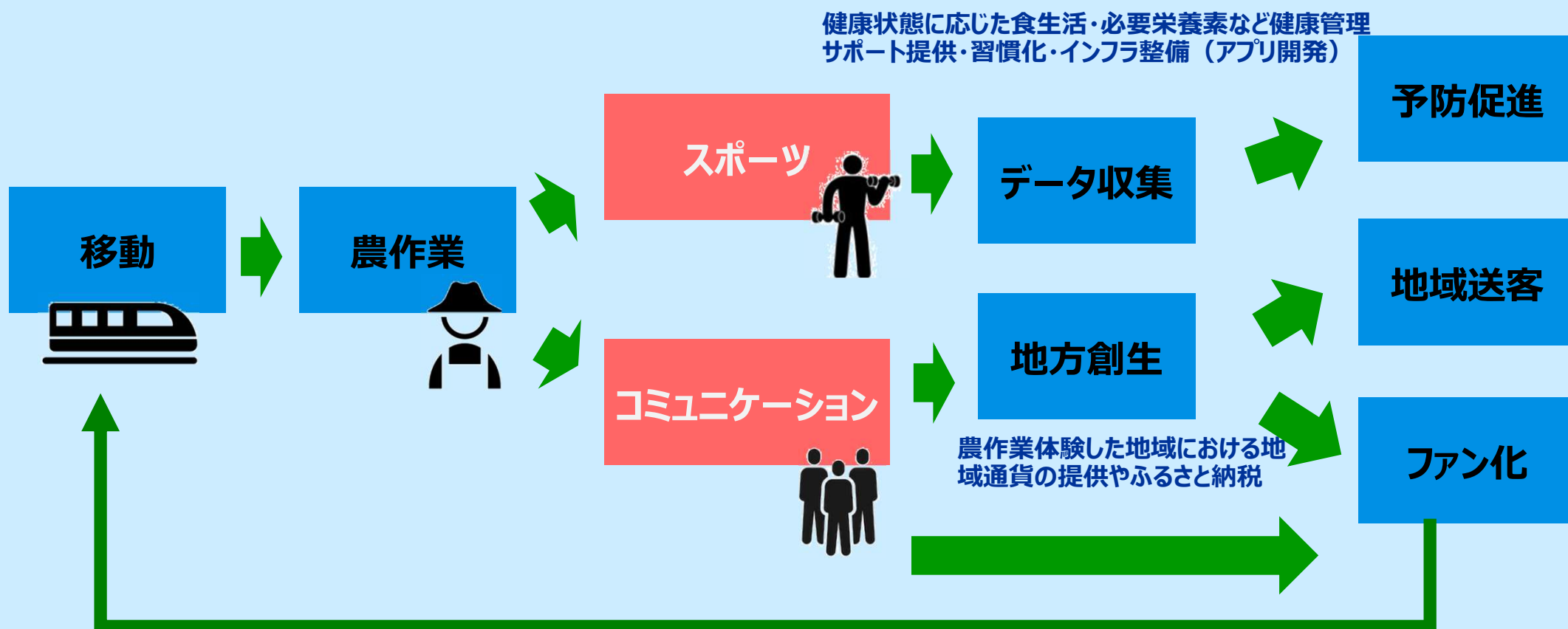
企業の健康経営サポートの一つとして事業化を目指す。

アグリスポーツで得られる効果として

- 農作業を通じて、「**体を動かすこと = 運動**」による心身ともに心地よい疲れ
- 普段とは違う「**非日常的な体験**」での心の解放と協力して作業することで生まれる「**コミュニケーション**」、「**チームビルディング**」
- **屋外**で作業に没頭することによる**ポジティブな感情**と、**集中力の向上**
- 農作業を行った地域に対する貢献の実感と、訪れた地域を好きになる、また**通ってみたいくなる感情** = 「**ファン化**」



価値提供イメージ（案）



「農業体験・農作業」をベースに「スポーツ」と「コミュニケーション」の機会を提供するプラットフォームを構築し、体験価値を提供。さらに価値を数値化することで企業の健康経営・Well-being経営の支援を実現。

想定する課題・議論したいテーマ

- 体験する対象者の想定設定
ex) 企業・自治体他の中の若手？ 中堅？ ベテラン？ 個人利用？
- 農作業体験をする場所の整備
- アグリスポーツを習慣化するにあたって、体験場所までのインフラ整備。体験するまでのハードルをいかに下げていくか？
- まずは都市型農園や、企業内ファームなどで体験するべきか？
- 実際の農家さんの耕作地を体験場所として受け入れが可能か？
→ 外部の方が出入りすることによる農作業への影響
- 企業への本取り組みの周知と、収益性の有無の検討

【参考スケジュール】

今春25年4～5月 PoC実証 → 25年度中 1～2社から本スタート